

# 東京都総合設計制度によって生み出された 公開空地の緑化状況調査

住宅・都市研究グループ 主任研究員 武田 ゆうこ

## I はじめに

都市の生物多様性への関心の高まりに伴い、建物緑化についても生物多様性への配慮が求められてきている。生物多様性向上のためには在来種の利用が重要となるが、従来の建物緑化ではデザインや管理面から園芸種や外来種が多用されてきた。近年、在来種を中心に配植する事例が出てきているが、生物多様性とデザインを両立させる知見が少ない。建築研究所では、在来種を用いながら都市緑化に求められる機能が発揮できる方法について検討を行っている。

ここでは、東京 23 区内の建物緑化事例の使用樹種について集計・分析を行った結果を報告する。

## II 公開空地の緑化状況調査

### (1) 公開空地

表 1 東京都の都市公園と公開空地

区	数		面積(m <sup>2</sup> )		公開空地の割合
	都市公園	公開空地	都市公園	公開空地	
千代田区	23	106	266,546	212,864	80%
中央区	57	97	569,635	245,233	43%
港区	51	179	501,997	376,146	75%
新宿区	177	36	546,033	79,498	15%
文京区	47	19	361,874	50,363	14%
台東区	52	21	749,982	17,415	2%
墨田区	144	15	773,228	47,346	6%
江東区	174	33	2,207,801	92,499	4%
品川区	150	51	735,639	175,826	24%
目黒区	80	10	462,717	112,633	24%
大田区	502	12	1,992,311	58,838	3%
世田谷区	423	14	2,528,708	52,696	2%
渋谷区	128	45	737,545	114,861	16%
中野区	164	6	420,042	6,954	2%
杉並区	277	5	1,145,744	10,687	1%
豊島区	88	24	181,953	25,864	14%
北区	85	6	968,020	11,640	1%
荒川区	37	7	337,194	57,272	17%
板橋区	347	10	1,892,607	69,988	4%
練馬区	460	5	2,004,290	10,171	1%
足立区	345	6	3,128,301	20,946	1%
葛飾区	147	7	1,806,737	23,757	1%
江戸川区	320	10	3,409,344	20,215	1%
合計	4278	724	27,728,247	1,893,710	7%

公開空地は貴重な緑地の確保に重要な役割を果たしており、その 4 割は都心 3 区にあり、都市公園にする数、面積を有している。(表 1、図 1)

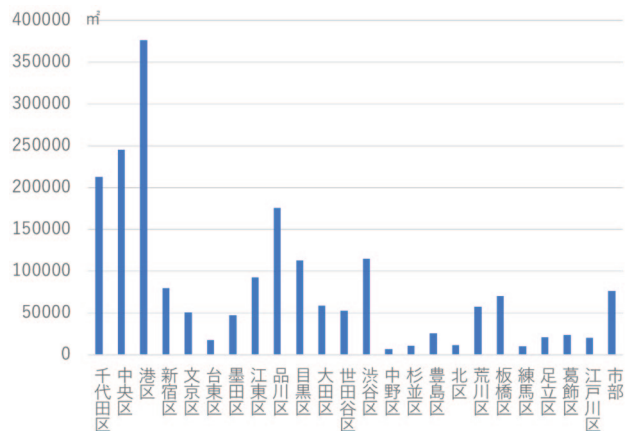


図 1 東京都の総合設計制度による公開空地面積

### (2) 調査対象・方法

平成 23～29 年度に東京都に提出された公開空地 (表 2) の「みどりの計画書」添付の植栽図面 50 件を入手し、植栽樹種、本数について集計・分析を行った。

表 2 調査対象公開空地の所在地及び申請年度

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	合計
千代田区			1	1	1	2	2	9
中央区			1		2		1	4
港区		2	1	2	2	1	1	18
新宿区							2	2
文京区	1							1
台東区					1			1
江東区			1		2			3
品川区					1			1
世田谷区				1				1
渋谷区					1	2	2	5
板橋区				2				2
豊島区					1		1	2
市部							1	1
合計	3	4	6	11	5	8	13	50

### III 調査結果

#### (1) 公開空地面積、緑地面積と樹木本数

東京都の総合設計の緑化基準値 35%に対し、公開空地面積に対する緑地面積割合は、公開空地の大小にかかわらず5割前後が多かった。(図2)

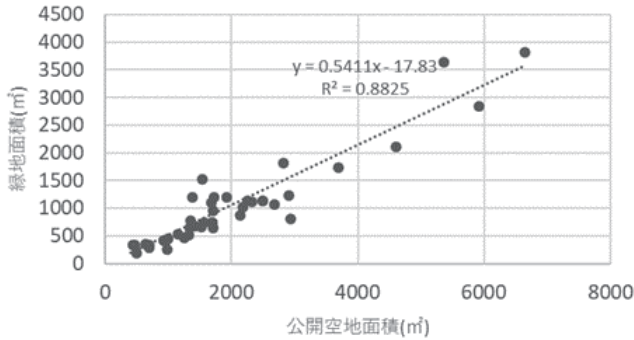


図2 公開空地面積と緑地面積

1か所当たりの中高木本数は平均173本(17本~997本)、植栽密度は100㎡あたり平均16本(1.4~120.8本)であった。(図3)

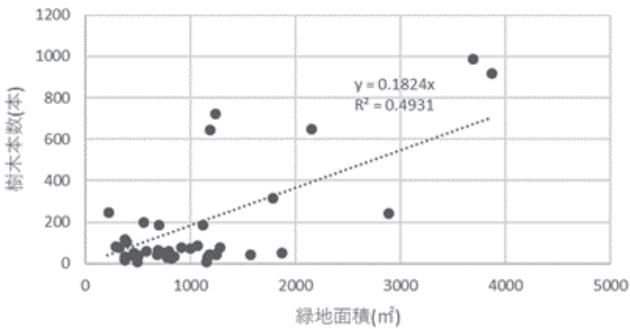


図3 緑地面積と樹木本数

#### (2) 植栽樹種

中高木は163種が使われていた。そのうち在来種は84種(52%)、そのうち東京都が在来種選定ガイドラインに掲載しているものが35種(21%) 外来種・園芸種が79種(49%)だった。また、樹木タイプで見ると、常緑広葉樹が55種(34%)、針葉樹が12種(7%)、落葉広葉樹が96種(59%)だった。(表3)

表3 植栽樹種

樹木タイプ	在来種	(うち東京都推奨)	外来種・園芸種	合計
常緑広葉樹	33	19	22	55
針葉樹	7	1	5	12
落葉広葉樹	44	15	52	96
合計	84	35	79	163

#### (3) 樹種別植栽本数

植栽されている中高木の総本数は7262本で、植栽本数の多い10種はすべて常緑広葉樹だった。また、ヒイラギモクセイとベニカナメモチ以外の8種は在来種だった。(図4)

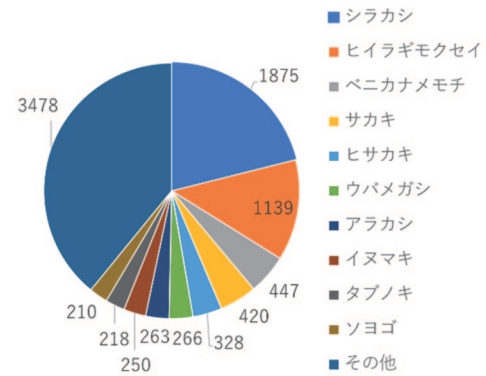


図4 樹種別本数

種数では、在来種は約半数、うち東京都推奨の樹種は2割だったが、本数割合で見ると、在来種は70%、うち東京都推奨の樹種が48%と半数近く占めており、多様な樹種を使用しつつ、在来種を主に植栽していることがわかった。(図5)

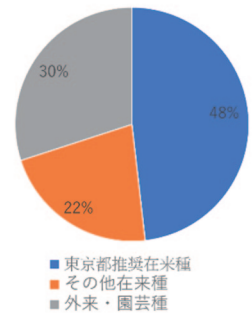


図5 在来種の割合(本数)

箇所毎の使用樹種を見ると、カツラやヤマザクラ等の在来の落葉広葉樹が主に植栽されている箇所もあった。(図6)

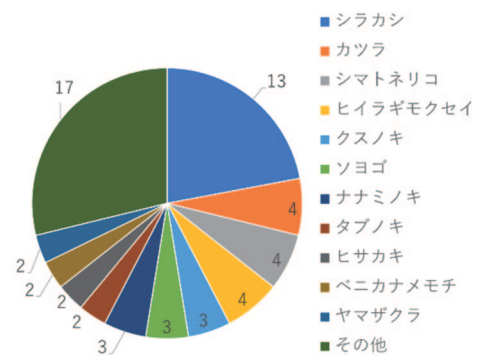


図6 最多使用樹種(箇所)

### IV まとめ

事例の分析を通じて、建物用途や立地、緑化面積等に応じて、生物多様性向上のために在来種を中心にしながら、快適性や季節感などを発揮できる配植方法について検討する予定である。